

森林整備倍増プロジェクト 推進発表会



平成26年(2014年)7月30日(水)
山口県セミナーパーク 講堂

森林整備倍増プロジェクトの概要

●全国の動向

●県内の動向

●森林整備倍増プロジェクトとは

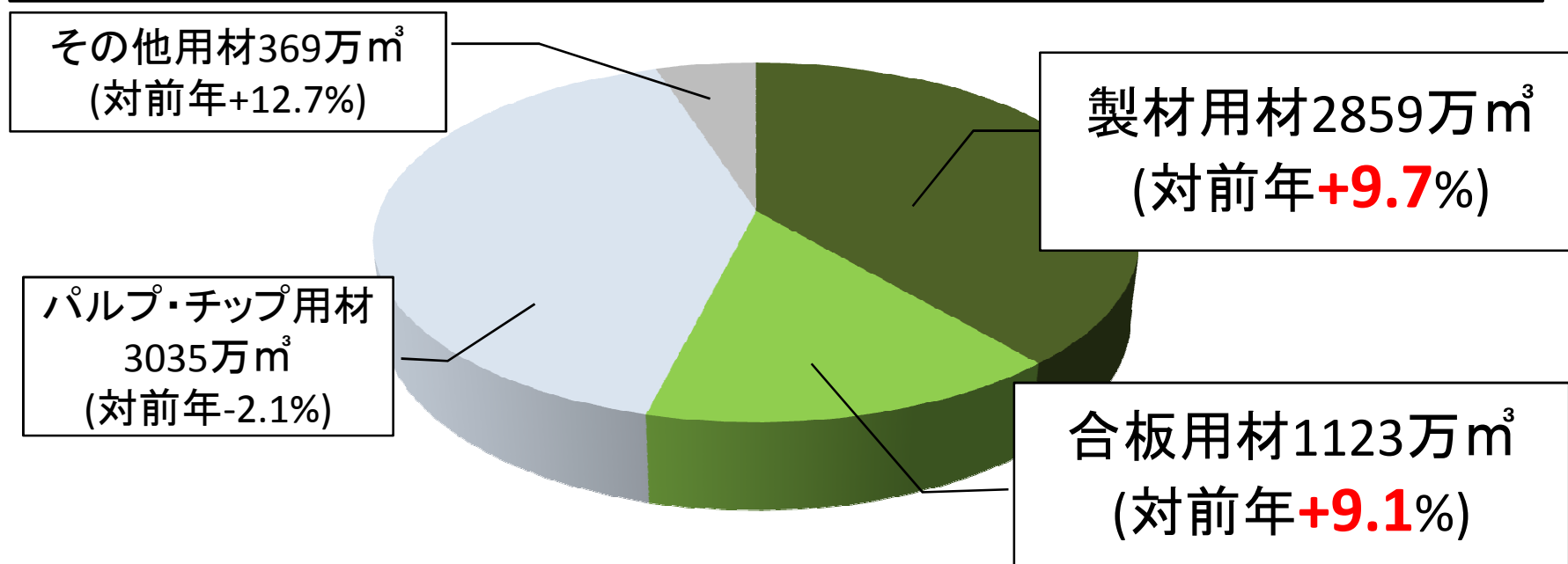
●全国の動向

平成25年木材需給の動向(用材部門)

総需要量 7387万 m^3 (対前年 +4.6%)

うち国内生産 2112万 m^3 (対前年 +7.3%)

自給率 28.6% (対前年 +0.7%)



【用途別内訳】

農林水産業・地域の活力創造プラン

平成25年12月10日決定・平成26年6月24日改訂

【農林水産業・地域の活力創造本部】



<政策の展開方向>

林業の成長産業化

農林水産業・地域の活力創造プラン

<目指す姿>

- 2020年までに国産材の供給量を倍増
(2009年:1,800万 m^3 → 2020年:3,900万 m^3)
- 2013年度から2020年度までの間、毎年52万haの間伐を実施

<展開する施策>

- ① 新たな木材需要創出
- ② 国産材の安定供給体制の構築
- ③ 森林の多面的機能の発揮

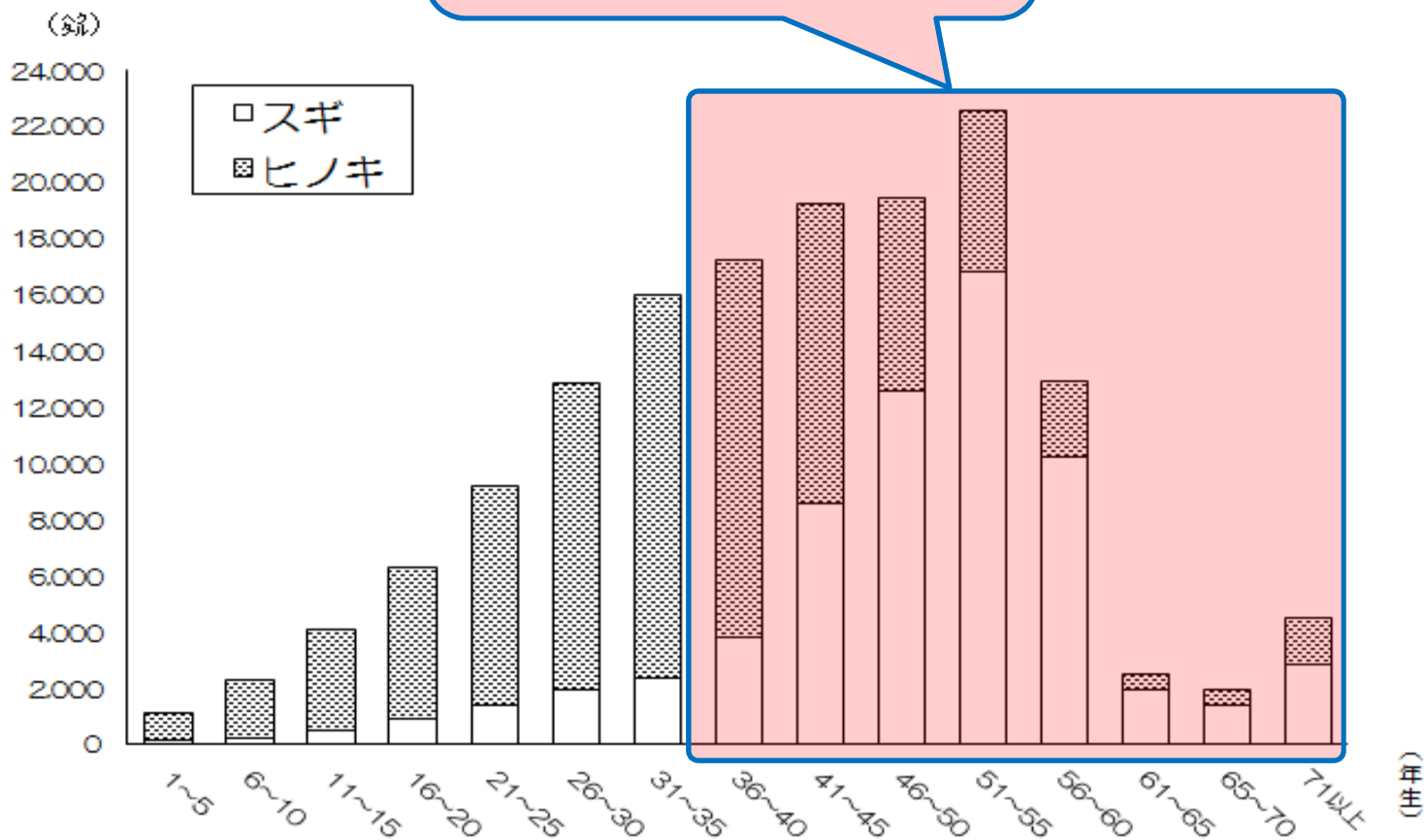
●県内の動向

県土面積の1/4

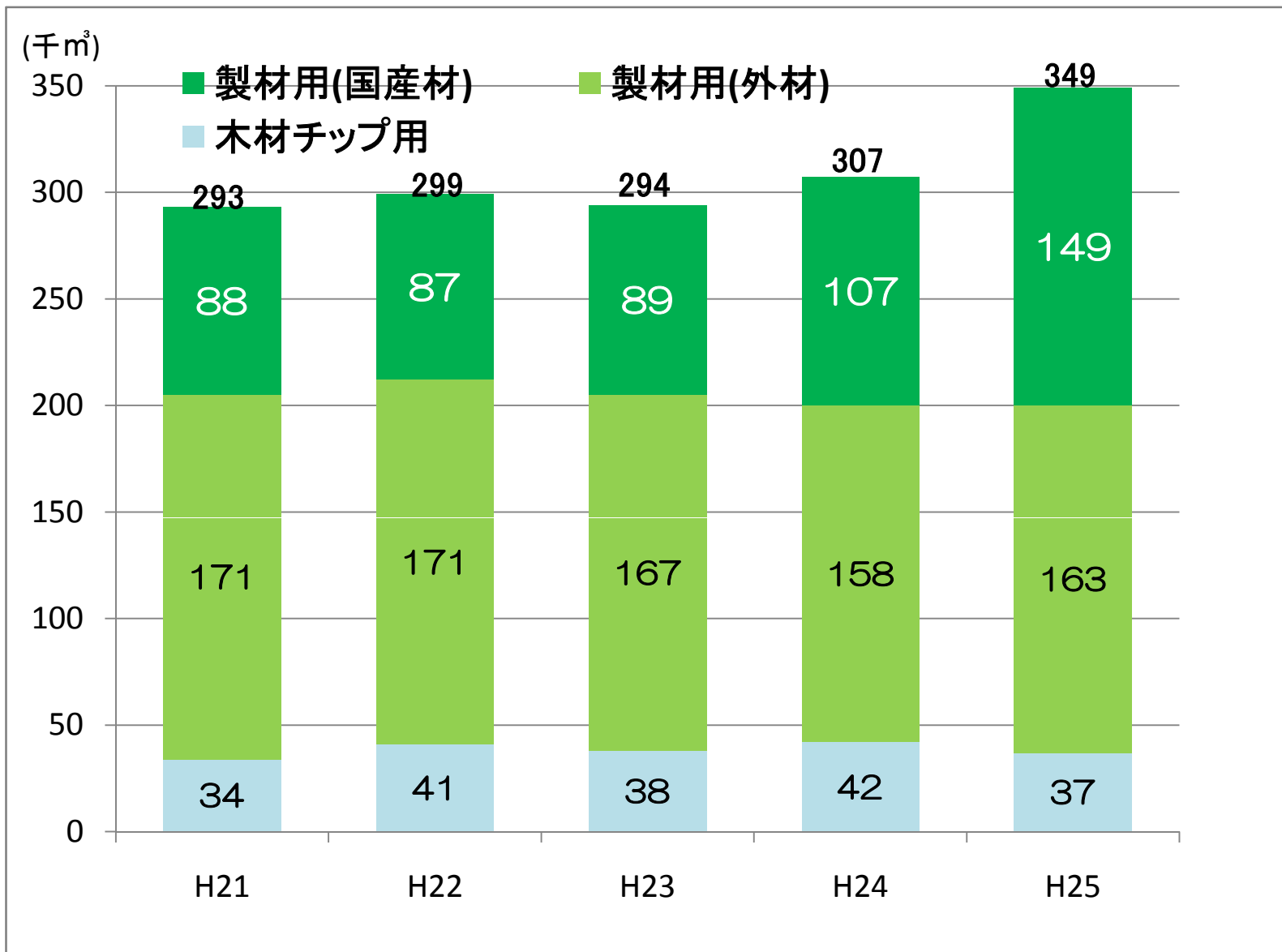
スギ・ヒノキ
民有林152千^{ヘク}_{タール}

うち6割以上が概ね
40年生(8^{齡級})以上

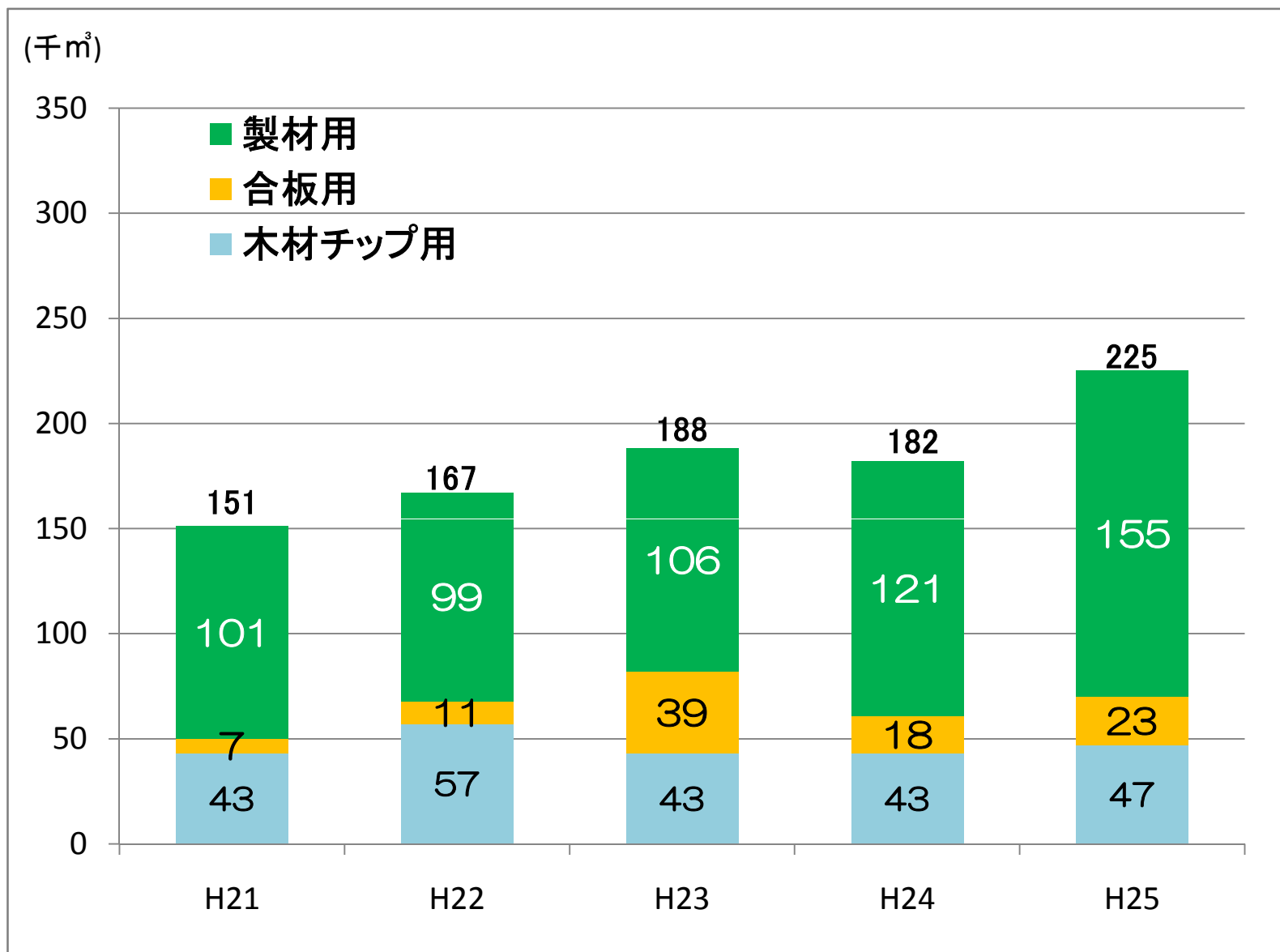
**本格的な
利用期へ!**



【スギ・ヒノキ民有林の林齢別面積】



【木材消費量】



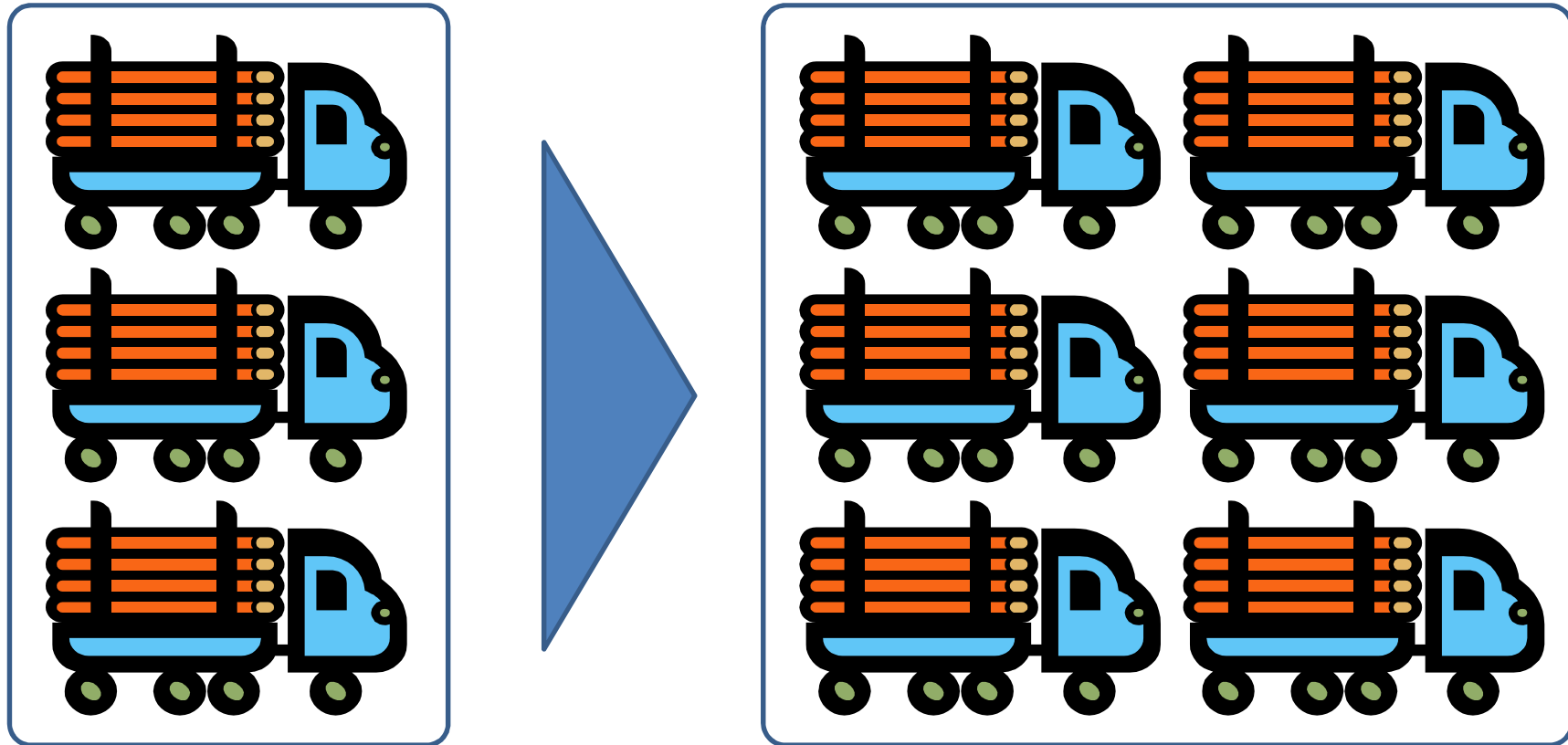
【素材(丸太)生産量】



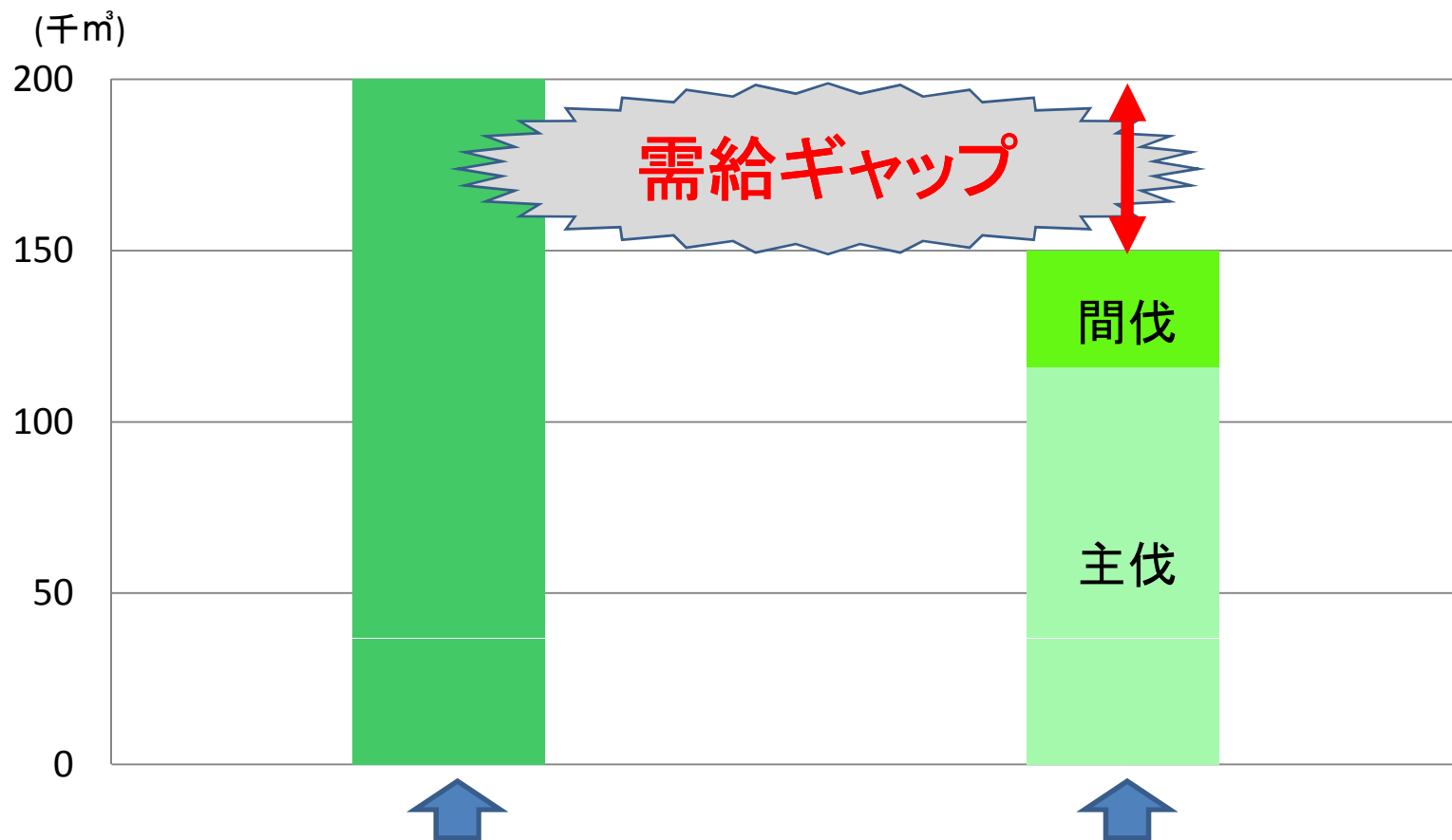
【原木の安定取引協定(H22年度～)】
現在、県森連等と県内製材工場(7社)及び
隣県合板工場(1社)で協定締結



もっと地域材を！



製材、合板工場など需要サイドにおいては、
地域からの安定供給増大が望まれている



<p>潜在的木材需要[推計] (スギ・ヒノキ) 200千m³</p>	<p>県産木材供給量(H23~H25) 150千m³</p>	
	<p>主伐[推計] 115千m³</p>	<p>間伐[推計] 35千m³</p>

樹は熟した。これからは…、

【方向】

資源を活かし「伐って出す(収穫する)」林業へ



【課題】

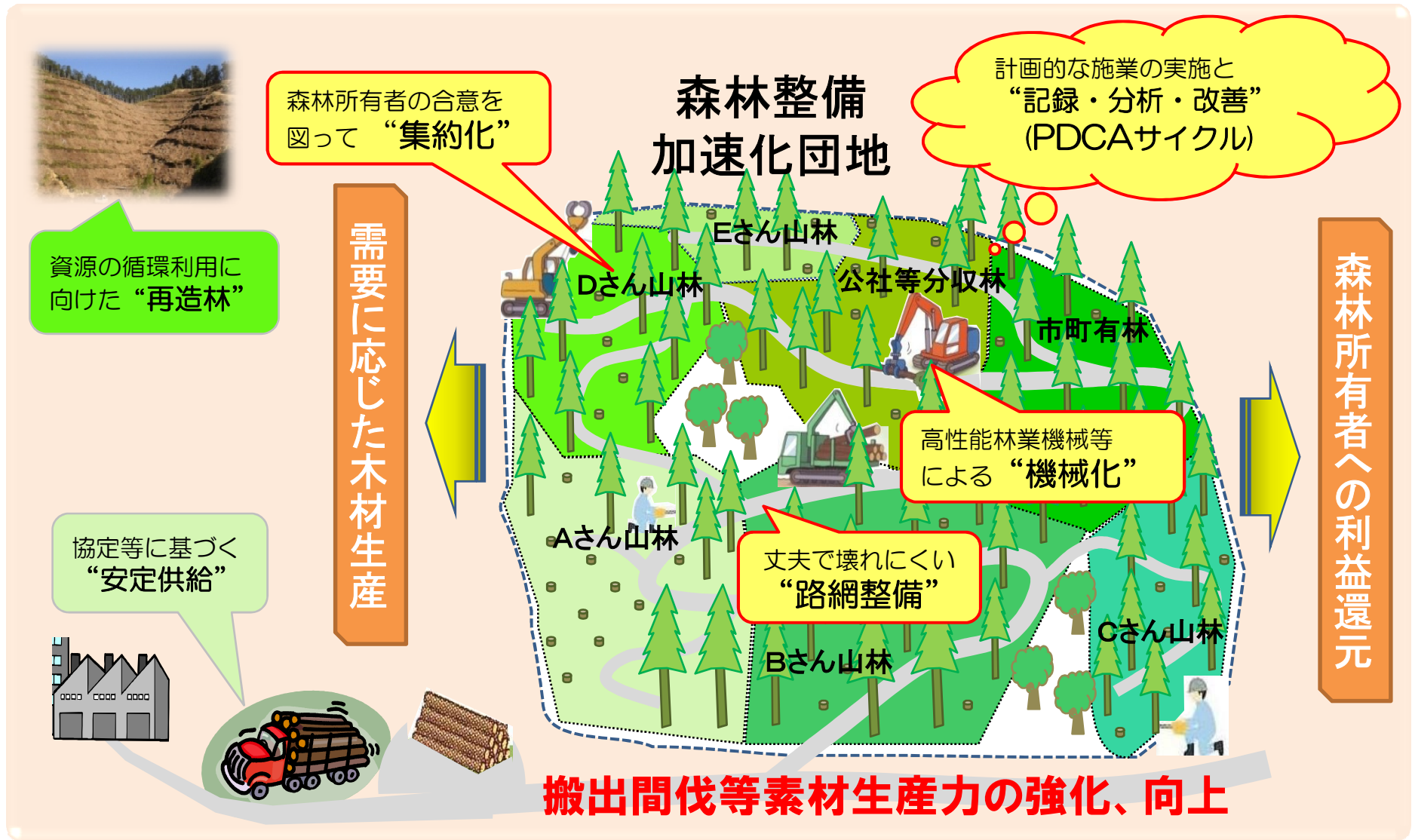
森林所有者に利益還元しつつ、需要に応じた
安定的な素材生産、供給体制を整えること



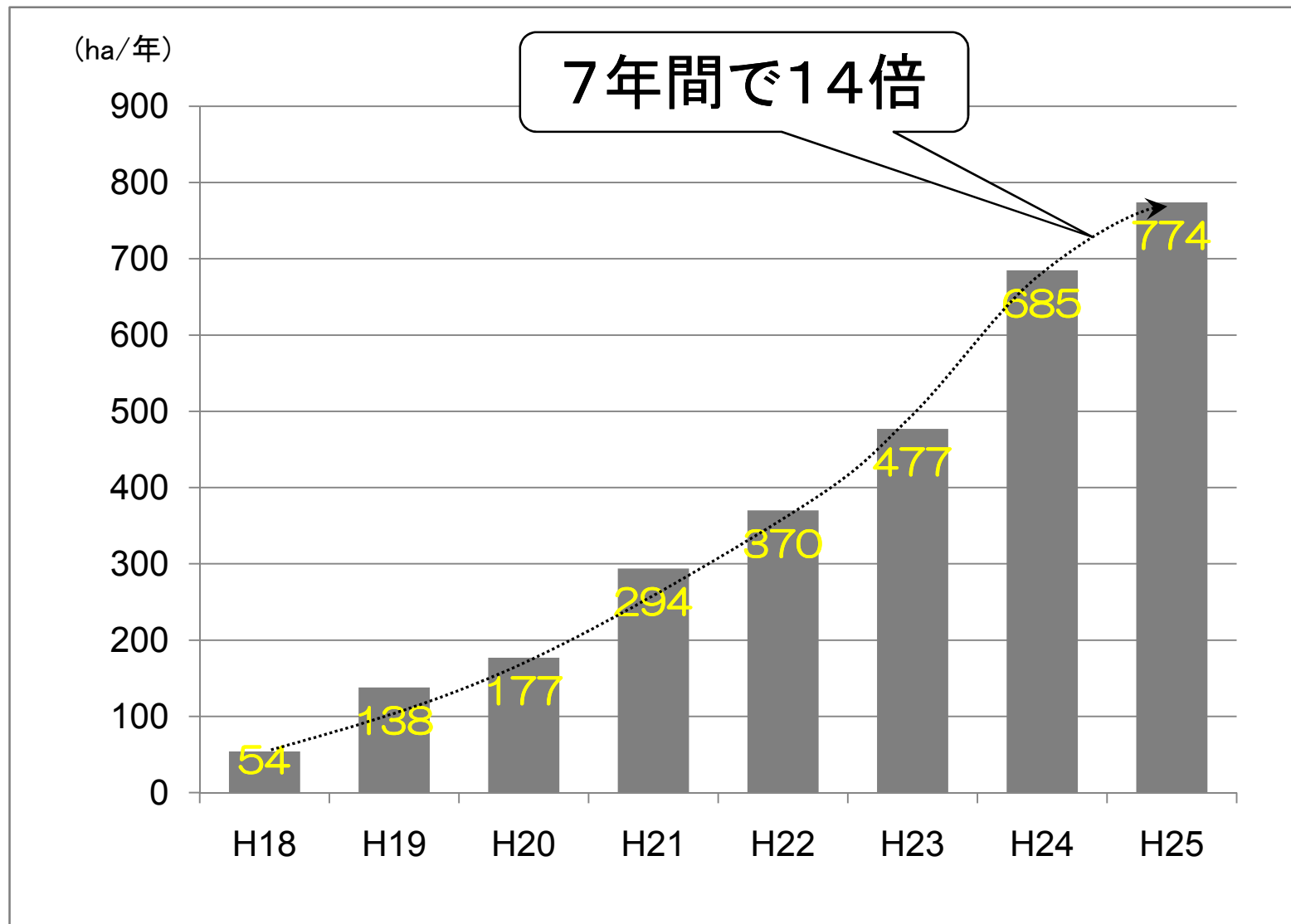
課題解決に向けた取組

『森林整備倍増プロジェクト』

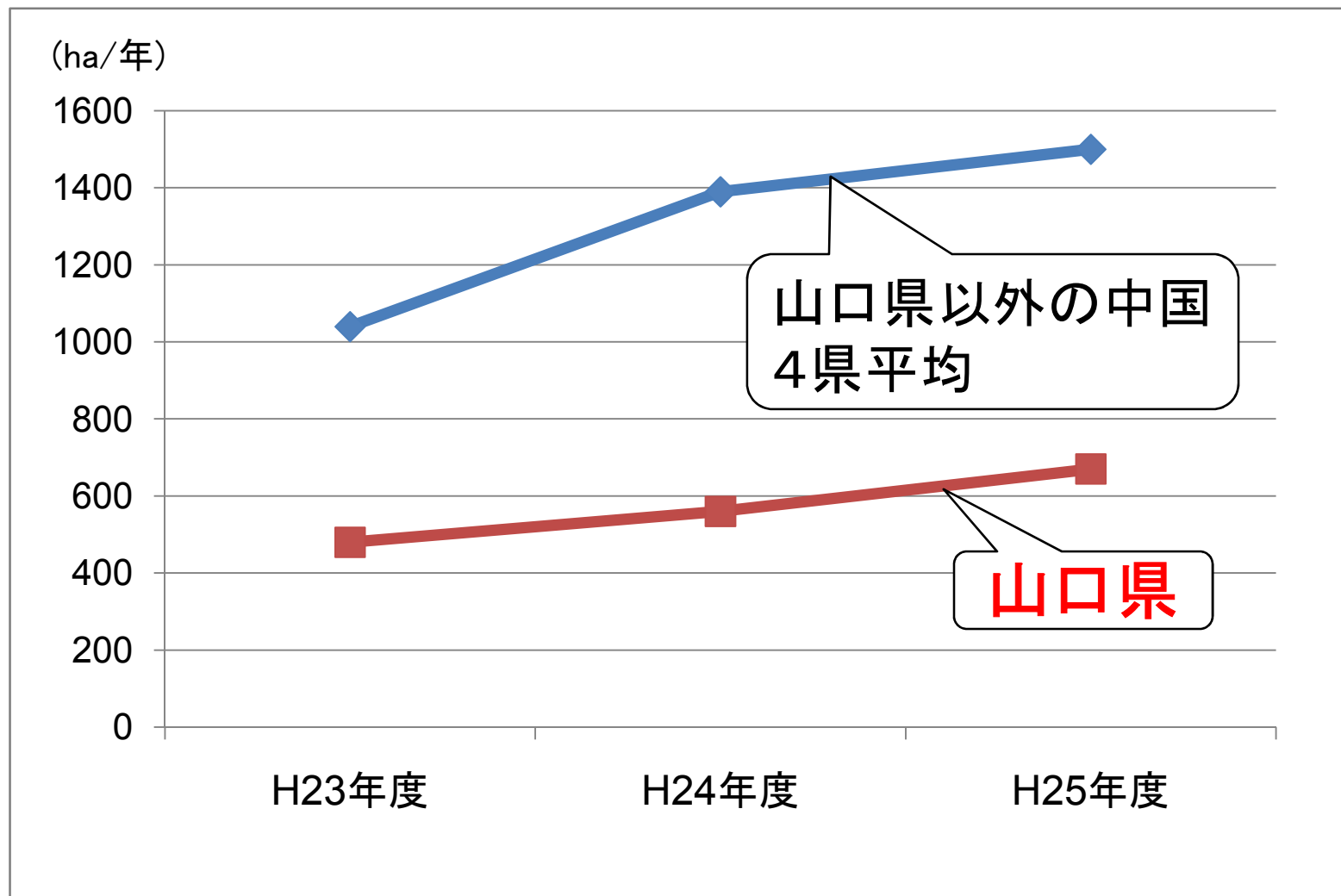
森林整備倍増プロジェクト【H25～H28年度】



県産木材の増産、適切な森林整備の推進



【搬出間伐実績】



【中国5県の搬出間伐実施状況（国庫補助事業分）】

森林整備倍増プロジェクト【H25～H28年度】



県産木材の増産、適切な森林整備の推進

やまぐち農林水産業再生強化・行動計画

平成25年(2013年)10月 山口県農林水産部策定

【目標[平成28年]】

- 県産木材生産量 221,000 m³/年
- 搬出間伐実施面積 1,100 ha/年

森林組合活動21世紀ビジョン・3rdステージ

『国産材の利用拡大と森林・林業再生運動』 山口県運動方針・目標

平成23年(2011年)3月 山口県森林組合改革推進委員会策定

【目標[平成27年]】

- 林産事業量 83,000 m³/年

県が本年度から進める「森林整備価値アッププロジェクト」を推進しようと、県森林組合連合会は19日、美祿市秋芳町のヒノキ人工林でスタートイベントを開催、関係の必要性をアピールした。

県では本年度、県内のスギ・ヒノキ人工林が、千杉のうち、約1割にあたる千杉が植林から起算して15歳以上経過。建築用材使えなくなると言われているが、関係がはらぎられ利用が進んでいないのが現状という。

イベントでは、関係の必要性をアピールした。関係の必要性をアピールした。

間伐進めて 生きた森へ

美祿でPR催し

県が林業効率化と低コスト化計画
「放置」改善で生物環境の整備にも



高容量林業機械を使った作業の実況＝19日、美祿市秋芳町

県内や関係は、大木の木材加工場があり、柱材と板の素材として間伐材は需要がある。一方でバイオマス燃料化することによって、関係の必要性をアピールした。

関係の必要性をアピールした。関係の必要性をアピールした。





【森林整備加速化団地の設定状況】